

## 新たな地球温暖化対策について

### 地球温暖化とは

まず簡単に地球温暖化が起こる仕組みをお話します。

地球は、太陽からの熱を吸収する一方で、一部の熱を宇宙へ放出しています。温室効果ガスとして知られている二酸化炭素・メタン等は、その放出する熱を吸収、反射することで地球の気温を一定に保ってきました。

しかし、産業革命以降、特に20世紀にはいってからは化石燃料の使用量の増加に伴って、二酸化炭素濃度が急上昇しました。そのため、宇宙へ放出する熱と吸収、反射する熱のバランスが崩れ、地球規模で気温が上昇しています。

そのため、南極の氷やアルプスの山岳氷河が融解し、海面の水位が上昇します。その結果、海拔の低い土地は、浸食や海没により失われてしまうのです。

### 滋賀県の取組について

滋賀県は、地球温暖化対策として「滋賀県地球温暖化対策推進計画」を策定しました。本計画では、県民・事業者・行政それぞれの役割に応じた8つの重点的取組を定めています。

そこで、重点的取組の中のうち、削減計画量が多い2つの取組を紹介します。

一つ目は、事業活動からの排出量の削減があります。具体的には、温室効果ガスの削減をはじめとする「大気環境負荷低減計画」があります。これは、「滋賀県大気環境への負荷の低減に関する条例」に基づいており、事業者が本計画およびその実施結果を滋賀県知事へ報告するものです。その他、各団体でも自主的に削減計画を定め、実行に移されています。

二つ目は、環境にこだわったライフスタイルへの変革があげられます。具体的には、家庭で取り組むエコライフの実践等になります。実践例は環境家計簿、家族ISOプログラムで示されており、効果的に実践が可能になっています。これにより温室効果ガス削減はもちろん、環境全般に対する効果が期待できます。

### 温室効果ガス排出量取引導入の動向について

我が国は、京都議定書を締結し、温室効果ガス排出量を1990年比6%削減することになっています。これを達成するには、特に産業界の対策が重要になってきます。

しかし、温室効果ガスの削減を進めるには、燃料転換・設備投資による多額の費用が必要となり、個々の企業ごとの対策では限度があります。

そのため、市場メカニズムを活用して効率的に排出量削減を実現する手法として、「温室効果ガス排出量取引」が注目されています。

この制度では、クレジットと呼ばれるものを取引します。クレジットは温室効果ガス排出量を削減目標以下に削減した事業者が得ることができ、それを、他の事業者に売却することが可能です。

一方、自社では温室効果ガスの排出量を削減目標以下にできない法人は、クレジットを購入することで、削減目標が達成されたこととなります。

つまり、CO<sub>2</sub>の削減(=環境対策)に経済的価値が付与されることとなります。また、温室効果ガスの排出量をクレジットという形で購入できることにより、温室効果ガスの削減について経済的に有利な方法を選択することが可能になるわけです。

今後、温室効果ガス排出量取引を導入することの是非、導入する場合の制度の在り方を検討するために、現在、環境省が中心となって「温室効果ガス排出量取引試行事業」が実施されています。

昨年12月に第1回目の取引が行われました。今年2月、3月、5月にも取引が行われた上で本事業の評価がなされます。

我が国では前述のとおり、まだ研究段階ですが、国際的には、2002年4月に英国で国内排出量取引が開始され、2005年からはEU域内で導入されることが決定しています。

【大気担当】